

奉致

御大禮乃儀式



即位礼
大嘗祭

平成廿年皐月朔日上梓

天皇は “日本”の象徴

日本には、いつも「天皇」があらせられます。その源流はどこにあるのでしょうか。

天皇のご先祖は、太陽の神・天照大御神です。天照大御神の

御孫・瓊瓊杵尊が地上を治めるために天から降る際、大御神

からは八坂瓊勾玉・八咫鏡・草薙剣の三種神器とともに、

三つの神勅も授けられました。

◆天照大御神の子孫が日本の君主として栄え続けること

◆八咫鏡を大御神に接するのと同じようにして祀るべきこと

◆人々の食の糧となる神聖な田の稲穂を授けること

今も日本では、天照大御神から続く子孫が皇位に即かれ、伊勢の神宮と宮中の御殿で神鏡をお祀りし、そして米が食の基盤であるように、神勅の精神が受け継がれています。

この国は、そんな神代からの約束事や歴史を、現代にまで伝えた国です。その文化の中心に今もいらつしやる天皇は、まさに日本という私たちの国の「象徴」と申し上げられましよう。

だいじようさい
大嘗祭、

この国いちばんの
お祭りです。

「御大礼」^{ごたいれい}とは、天皇の即位に関わる一連の儀式の総称です。践祚^{せんそ}（即位）した新帝は、即位礼^{すくいれい}から大嘗祭^{だいじようさい}、大饗^{だいこう}、親饗^{しんこう}など、数多くの儀式を行われます。なかでも秋の「大嘗祭」は、一世に一度、国民とともに挙げられる最大の祭祀です。

世界には様々な国があります。君主制の国では、国王自身による宣誓や、聖職者の手による戴冠^{はくかん}など、それぞれの国がその歴史や文化のなかで育んできた方法で、それぞれ即位の儀式を行っています。これを古く日本では、新帝自身の挙行する全国規模の秋祭りを、特に重要なものとしてきました。

天皇とこの国に生きる私たちとの紐帯^{むぎわづ}は、単に神話だけによっているわけではありません。常に国と人々とともにあらせられる天皇と国民の、互いの信頼と敬愛にも基づいているものです。新帝が国民とともに日本全体で行われる大嘗祭は、そうした天皇と私たちとの関係をあらためて実感させてくれる行事^{おまつり}でもあるのかもしれません。

そくいれい

即位礼

新帝、即位を宣明する。

三種神器等を受け継いで

皇位に即かれた新しい天皇陛下は、

吉日をえらび、その即位を公式に

国内や諸外国へ宣言して、明らかにされます。

国民の代表や海外の賓客らが祝福するなか、

陛下がその御座である「高御座」へ登られる、

威風堂々とした儀式です。

だいじょうさい

大嘗祭

新帝、国を挙げた祭礼を親ら執り行う。

即位の後、天皇陛下は日本中を代表して

神々を祀られます。

天皇一代に一度だけのこのお祭りでは、

東西から全国の代表となる「悠紀田」と

「主基田」が選定され、

そこで穫れた新穀が神饌とされます。

浄らかな秋の夜に、

上古さながらに設えた御殿の内で

世の中の平穏と繁栄とを祈られる、

古式ゆかしい厳粛なお祭りです。

だいきよう

大饗

新帝、大嘗祭の撤下神饌をわかし、

国民とともに歓び合う。

大嘗祭で神様にふるまい、

ともに天皇陛下も食された神饌の「おさがり」が、

今度は国民の代表へもわけられます。

お祭りの最後に行われる祝宴、「直会」です。

大嘗祭の直会として、

国民は陛下とともにおさがりを戴き、

ともに古来の芸能を楽しみ、

そうして陛下の即位を寿いで、

歓びをともにするのです。

しんえつ

親謁

新帝、天照大御神と

歴代天皇に即位を奉告する。

つつがなく即位の儀式を終えられた天皇陛下は、

天照大御神をお祀りする伊勢の神宮や、

神武天皇、そして近縁の天皇がお鎮まりになる

御陵に親ら参拝されます。

ご先祖の神様や歴代の天皇方へ、

即位を奉告なさるのです。



この広い世界でたくさんの
素敵な文化に出逢える今、
天皇がいらっしゃるこの国の文化も
一緒に感じませんか。

平成三十年五月一日発行
神社本庁教化広報センター

〒二五一〇〇五三

東京都渋谷区代々木一―一二

TEL 〇三―三三七九―八〇二

FAX 〇三―三三七九―八二九九

※天皇の即位に伴う儀礼は、それぞれの時代に
応じて変化をとげてきました。このリーフレットは、
そうした歴史を踏まえつつ近現代に整理された
儀式をベースに、その概要をお伝えするものです。